

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライク学園【児童発達支援】			
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者連絡は細目に毎日写真付きで様子を伝えるようにしている。	保護者がいつでも様子を確認できるようにLINEアプリを使用し保護者連絡をしている。また気になることがあれば24時間いつでも受付できるよう保護者からの連絡や相談もLINEでも受付している。	LINEでの連絡の他、送迎時やお迎え時にできごとを口頭で伝える他、保護者からの希望も随時間きながら改保護者の本当のニーズの合わせて改善を図っていく。
2	それぞれの職員が専門性を持って療育支援を実施している。	それぞれの職員の強味を活かしたチーム支援や業務分担をしている。また、研修参加もたくさん設定しており自ら興味を持った研修参加できるような勤務調整をし、学べる機会も設定している。	今後新人職員も増えていくため先輩職員が後輩職員にOJTする仕組みの構築を強化していく。
3	法令を遵守し健全な事業所運営をしている。	新規利用相談、利用契約面談、各種同意書の説明、個別支援計画説明、支援経過の様子の報告と記録、モニタリングを丁寧に説明している。また、事業運営についてさまざまな外部機関から情報を頂きながら運営や書類の作成をしている。	丁寧な相談受付や説明の面談をすると共に、法令を深く読み込み理解し、より子どもの最善の利益となる取り組みの実施や保護者さまのサポートをしていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	面積は十分に確保しスペースも個室と集団療育する訓練指導室も2部屋あるが、パーテーションで活動エリアを分けたりそれぞれの児童のやりたいことが違うことにより、訓練指導室を分けて使うことも増えてきている。	利用児童人数の増加と共に児童の特性や配慮を考慮し事業所内の環境設定を変更している。	利用児童の希望を叶えながらより広い訓練指導室の確保をするために事業所を増やす計画をしている。
2	国が基準としている人員は加配する人数までは確保できているがそれ以上の確保ができていない。	さまざまな媒体で求人をしているが求人に対する応募者の数が少ない。	専門職となる有資格者の若者が県外へ流出しない地域ならではの取り組みや定着が必要。地方部でも安定して暮らせるような給与水準が必要。有資格者の取り合いにならないような一人ひとりのキャリア支援が地域全体でできる体制構築が必要。
3	地域の社会資源との交流が少ない。	事業所を開設して間もないため地域の社会資源との連携が薄く感じる。保育所や就労支援事業所、社会福祉協議会、他児童発達支援事業所、地域のお店等との交流をしているがアンケート結果を踏まえてもっともっと増やさないといけないと感じた。	今お繋がり頂けている社会資源との関係性を保ちつつ、新しい社会資源との繋がりも持ち増やしていく。